

国立成育医療センター 総合診療部 救急診療科

2002年3月の開院以来、当救急診療科は、初期救急から3次救急まで、いつでも、救急診療を必要としている子ども達を受け入れています。既存の小児科救急（夜間・時間外診療）の枠を超え、内因性疾患はもちろんのこと、外傷など外因性疾患についても、小児に起こる緊急事態全てに24時間対応することを小児救急と位置づけ、日々診療を行っています。

“Pediatric Chain of Survival”（小児の救命の鎖）の確立のために、院内での救急診療のみならず院外での重症患者搬送などの診療、外傷に対する予防プログラムの実施、小児救急医療にかかわる教育も積極的に行っております。

救急診療の理念として「5つのT」を掲げ、Triage（トリアージ）、Teaching/Training（教育・トレーニング）、Team（チーム医療）、Transport（搬送）、Trauma（外傷診療）の実践を行います。

救急診療科の活動（2008年4月 - 2009年3月）

来院患者総数	26,472名	
救急車数	2,588台	
救急外来からの入院数	3,150名	
小児集中治療室への入院	182名	（小児集中治療室入院数の22%）
重症患者搬送	当院搬送チームによる重症患者搬送	27件
	ヘリコプターによる重症患者搬送	15件

国立成育医療センター救急診療科の特徴

1. 小児救急トリアージ
 - 年齢・発達段階に対応した小児独自のトリアージシステムの導入
 - 治療の優先度・適切な診療場所の決定と継続的な患者評価
2. 小児の危急的病態への初期対応
 - 呼吸・循環・中枢神経機能の迅速かつ系統立った初期評価と管理
 - 患者安定化後の適切な管理とdispositionの決定
3. 小児の救急搬送医療
 - 小児救急医療における重症患者搬送の意義と病態生理の理解
 - 搬送医療実践の知識と準備
4. シミュレーションによる、定期的な蘇生実技演習・講義
 - 小児救急医療における生理学・病態生理の理解
 - 救急重症例・外傷初期診療の模擬実習および講義